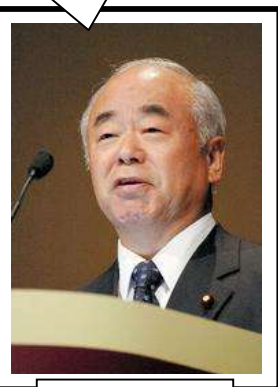


原爆投下を肯定する「こんな人物が 防衛相の国の「国民保護」

全国ネット事務局
矢野秀喜

原爆投下は
しょうがない!



久間防衛相

久間防衛相発言は確信犯

「原爆を落とされて長崎は本当に無数の人が悲惨な目にあつたが、あれで戦争が終わつたんだという頭の整理で今、しょうがないなと思つている」。これは、久間防衛相が9月30日に麗澤大学(千葉県)で行つた講演の中で述べたものだ。彼は、なぜ、「原爆投下しようがない」と思つたのか?それは、この発言の前段を読まなければならぬ。「幸いに(戦争が)8月15日に終わったから、北海道は占領されずに済んだが、間違えば北海道までソ連に取られてしまう。その当時の日本は取られても何もする方法はないわけですから」(以上、引用は『朝日新聞』より)という件があり、冒頭に引用した発言がこれに続くのである。

つまり久間防衛相は、米国の原爆投下により戦争が早く(?)終

結し、それによつてソ連の日本進駐・占領介入という事態が起きなかつた、だから、悲惨な被害をもたらした原爆投下もある意味で止むを得なかつた、と言つてゐるのである。



この久間発言を絶対に認めることはできない。確かに、久間防衛相はこの講演の中では、米国を恨むつもりはないが、勝ち戦ということが分かつていながら、原爆まで使う必要があつたのか、という思いは今でもしている」とも言つてゐる。しかし、その思いも、結局は「国際情勢とか戦後の占領などからいくと、そついつこと(注:原爆投下)も選択肢としてはありうるのかな。そういうことも我々には十分、頭に入れながら考えなくてはいけないと思つた」という認

識を「上位」に置くことによつて打ち消しているのである。彼はその意味で「確信犯」なのであり、「失言」をしたのではないのである。

国家の安全のためには、国民の犠牲はやむを得ない(?!)

どのような「確信犯」か?久間防衛相は、有事法制・国民保護法をめぐつて議論がされてきた時、『朝日新聞』の「対論」というコラムに登場し、次のような発言をしている。「国家の安全のために個人に命を差し出せなどとは言わぬ。が、80人の国民を救うために20人の犠牲はやむを得ないとの判断はあり得る」。「原爆投下しようがない」と通底する発言である。彼の「国民保護」はこのような認識をベースとしていることを改めて確認しておこう。

彼は、「国家の安全」や「国体」を守るためには、多少の犠牲はや

むを得ない、国民はそれを受忍すべきである、という考えの持ち主なのである。国民の平和的生存権などというものは、この人の頭の中には端から入つていないという外ない。

戦時態勢・「国民保護」体制
づくりの中にある久間発言

しかし、このような発言が現役の防衛相から出されたことを私たちは深刻に考えざるを得ない。

「同盟国」の米国であれ、防衛省が「国民保護」の「お手本」と仰いでいるイスラエルであれ、国防長官が原爆投下しようがない「(100人のうち)10人の犠牲はやむを得ない」などという発言をして許されるということは絶対にあり得ない。必ず更迭される。ところが、久間といい、安倍といい、自らは決して被爆者になることは

反対運動弾圧に出動した「ぶんご」



なく、「10人」のうちの一人になるということもない位置、境涯に身を置いた者が、このような発言をしている。

そして、久間防衛相は、自衛隊情報保全隊が市民運動、反戦運動等を監視・スパイしていることを「当然」とし、監視対象は「国民」であると言い放っている。何の法的裏づけ、正当性もないにもかかわらず、居直っているのである。また、沖縄・名護に掃海母艦「ぶんご」を派遣し、新基地建設反対運動を妨害し、威嚇している。これにも自衛隊法上の根拠は一切なく、「超法規的」対応である。

防衛省・自衛隊という軍事組織が「超法規的」に動き出す、シビリアンコントロールがきかなくなってきた。そして、「原爆投下しようがない」「10分の1の犠牲はやむを得ない」という認識に基づき戦時態勢・「国民保護」体制づくりを進める。これこそが「いつか来た道」ではないのか？！

一瞬にして廃墟と化した原爆投下後の広島



無防備地域宣言運動を広げよう！

今こそ「外交・防衛は国の専管事項」などという論理（「ウソ」）を乗り越えて、住民が自らの生命・財産を守るために考え、行動していくときである。

地方自治の原則に基づき、自治体に可能な安全保障の策、道を構想し、具体化していく、それこそが自治体・住民が安全保障に関わる自己決定権を獲得していく道だ。無防備地域運動をさらに広げてください。

久間防衛相は1日昼、原爆投下肯定発言を「陳謝」した。それは、国民の批判と参院選への影響を恐れただけのことで、その本質は変わっていない。

知性と品性を問う
それにしても・・・トホホな安倍

久間防衛相の発言について記者から質された安倍首相が、次のように答えたと言う。

「自分としては忸怩（じくじ）たるものがあるとの被爆地としての考え方も披瀝されたと聞いている。核を廃絶することが日本の使命だ。」「忸怩たるものがある」とは何だ？久間がどこで「忸怩たる思い」を披瀝したと言うのか？「勝ち戦ということが分かっていないながら、原爆まで使う必要があったのか、という思いは今でもしている」という発言のことを指しているのだらうか？この発言を指して「忸怩」たる思いの表明などという安倍の言語感覚、国語力を嗤（わら）うほかない（忸怩・恥じ入るさま）

広辞苑。

安倍は、松岡農水相が自殺した折にも、「慙愧（ざんき）に耐えない」などという発言している。松岡が自殺して何故安倍が恥じ入る必要があるのか、松岡のような人物を閣僚に任命した自らの不明を恥じるとでも言うのだろうか？（慙愧：自己に対して恥じること）

日本語も満足に知らない、使えない男が「美しい国、日本」をつくるという。このアホらしさ。安倍をかつぐ人たちの知性と品性を問いたい。

